



神様であるイエス様
との歩み
について

My Walk
With
Jesus Christ

これは私と神様であるイエス様との歩みについての証しです。

この証を書く目的はあなたが神様であるイエス様との歩みを聴くことができ、神様を知れるようになるということです。神様の話ですから皆さんにきっと興味をもって注意深く読んでいただけるでしょう。

僕は50才のオーストラリア人で、サイモンと言います。約10年間静岡県の浜松市とその近くの場所に住んでいました。生まれて40年間の間、わがまま、生きがいがない生活、乱交、友情より金儲けを先にしてしまった行為等のすべきではないことばかりをしてしまいました。実は、これらは全部きれいなものでしたが、全部が性分です。うすすることもできないものだと思いつ込んでいました。しかし、1998年の11月にクリスチャンになってイエス様は僕の人生を一変して下さいました。この証しはそれを語ります。

その頃、私はイギリスのシェフィールド大学院で留学していました。ある日、同級生が聴く価値がある牧師の話を聴きに教会に行くように誘ってくれたので二人で次の日曜日に行きました。神様

を無視して人生を送る人は、風がヒューヒューと永久に吹いている砂漠の中で生活をしているようであり、本当の安らぎを知らないと牧師は言うていました。このイメージはぴったり合っていて牧師の言葉が心にしみいりました。300人もいましたけれど、牧師と私のこの二人しかいないようなマンツーマンのような気がしました。イエス様が入れるように心を開けたらその時点からまるでオアシスに居るように、だんだんその風が吹きやんで本当の安らぎが得られると牧師は続けました。その牧師の話しをまた翌週聞きに行きたいほど感動しました。

少年の頃に遡って話しを続けます。四才の時に父親に死なれて何より大きな影響を受けました。5才ごろー12才ごろの間、男の子には父親が必要で、父親の指導の下で男らしく成長するのです。父がいなくて内面的には普通に発達するはずの性格が成長を中断してしまいました。毎日のように中高校ではひどくいじめられていました。その結果、高校を卒業した時に大変な劣等感を感じてしまい、全く精神的な障害者になってしまいました。その劣等感のせいで自尊心が殆どなくて友達をなかなか作れず、家族の者とケンカし、人との関係がうまく築けませんでした。言い換えれ

ばこれは人間関係上・家庭上・仕事上の問題の大きな原因でした。幼い時からの根深い痛み・傷のことなので、どんな手段をとっていてもうまく行かず、そこから逃れられずに惨めな状況が20年間続いてきました。劣等感についての特にいやなこととしては、少人数でも人前で話すということです。恐怖感話す日の朝から始まり、必ず毎回冷や汗をかいたり膝がふるえたり顔を赤くしたり非常に小さな声で話したりしていました。

大学院の頃に戻しましょう。3ヶ月の間その教会に通い続けて、聖書の勉強のグループのメンバーになって少しずつ神様のことを信じ始めました。従って、聖書に載っている神様の御言葉を考えてその教えに従ってみました。その一つとして「神様の国とその義を求めたらあなたの必要なものを全て与えられます」という箇所を読みました。疑いがたくさんあったけれども、ある日「私の心の中に痛いものがたくさんあるので、イエス様、もしいらっしゃるなら治して下さいお願いします」とお祈りしました。その時まで催眠療法やカウンセリングをやってみましたが、全然利かなかったのが神様にお願いすることに決めました。その後すぐ授業の中で15人の前で立って10分の間研究について説明するように教授に言わ

れました。それで立ったまま、話して、それから座りました。大変驚いたことに恐怖感が殆どありませんでした。その時までは力も勇気も感じられなかったのが内面的にきつと何かが起こったのです。こんなことがあったのに最初は神様の御技のことだと信じられず、その他ありそうな理由を探しましたが、何もなかったのです。事実、イエス様を少し信仰し、聖書が神様の御言葉だと信じ、聖書の教えを毎日の生活に応用する他に生活は全然変わっていませんでした。徐々に私は精神的に強くなってきました。結局、2003年に近くのバプティスト教会に集まった200人の大勢の前で大声で15分の間講演してから盛んな拍手を受けました。ずっとそばにイエス様が立っていらっしゃると分かりました。これは神様の御存在の証明だと思いました。神様の指導で、25年間必ず少人数でもぞっとしていた私は、自信を持ってスムーズに200人に話をできるようになりました。本当に素晴らしかったのです。

その他にも、イエス様はそれ以外にも癒してくれた例の一つをあげます。1999年にシェフィールドで一人でワインのひと瓶を全部飲んで翌朝に二日酔いでした。しかし、ある日に皆で飲み屋に行った日、一杯半を飲んでから飲む気がすっか

りなくなってしまって驚きました。普通はずっと飲み続けていたけれど、今回はこれ以上絶対に飲みたくない気がしました。これも私を深く愛してくれる天のお父さんからの祝福だと分かりました。家庭の良いお父さんは自分の子を世話するように、神様である天のお父さんも自分の子をお世話して下さいます。これは突然起こった上に、四年が経った今もお酒をその同じ一杯ぐらいしか飲みたくない状態が続いているので、神様の奇跡に違いないです。この頃、生まれて初めて経験する気持ちを持ちました。本当に神様に愛されているような気持ちになりました。なかなか言葉だけではうまく説明ができませんが、曖昧ではなく、とてもはっきりとしていて、現実的でした。とても安心しました。私の将来はどうなったとしてもお世話して下さいます。

たとえて言うなら次のように説明できます。部屋の中にいる人は窓から見て、風で揺れている木の枝が見えます。部屋の中に風は感じられず、見えないけれども、木の枝が揺れているということは風の存在を証明するということです。同じようにイエス様は感じられず、見えないけれども、子供の頃から苦勞している私の苦しみが奇跡で治ってきたということはイエス様が神様としての

存在であることを証明するということです。私はイエス様だけを祈ったり崇拜して、その他は何もしていません。

次に、キリスト教では聖書は神様によって伝えられてきた御言葉だと教えられています。上記の説明のように聖書の約束を明らかに信頼できることを経験したからこそ、聖書を全部信じられることを確信しています。その論理も理屈に合うと思います。人間にとって特に何より大切なものは死んでからの命だということです。聖書では輪廻が一切なくて、地上の命としてはこれしかないし、イエス様によって救われたら死んだ瞬間天国に永久に行けます。しかし、救われない人は永久に地獄に行かされることとなります。私は上記のような素晴らしいことを経験したので、聖書の全体が真実だと考えざるを得ません。仏教・儒教・神道・イスラム教等その他の宗教は真実の全てで構成されているのではなく真実の部分のみを言っているにすぎません。神様は自然の栄光・人間の道徳・神への渴望を通して部分的に御自分の栄光を私達に見せて下さいました。他の宗教の創始者はそれらだけが神様からの贈り物と考えて宗教を作りました。しかし、神様は御子のイエス様のみを生かして全体的に御自分のすべてを見せて

下さり、キリスト教は真実の全てを明らかにしてくれるのです。

ここで、とても大事なことを言わせて下さい：

あなたは人生の決定をしなければなりません。神様は人間をロボットのような操れるものに創作されず、皆に自由意志を与えてくれました。従って、今までのままの人生を送りながら、上記の証しを信じ、神様を探求できます。そうすれば、神様は御自分のことをお見せ下さり、祝福を注いで下さることを聖書で約束しています。その約束に関心がある方は以下を読み続けましょう。

Q：それでは今から何をすればいいのですか？

A：三つのことであり、それは次の通りです。

(1) 神様から頂いた聖書の教えによるとどんなに潔白そうに見える人間でもSINを犯したことがあるそうです。SINということは意味的に「罪」に一番近いですが、SINは盗難や人殺し等の重大な罪だけではなく、悪口・税金のごまかし・わいせつ・わがまま・酔っぱらい・偽善・かっとなる・不倫・嫉妬・憎悪・不親切さ・傲慢な行動ということも入ります。従って、間違いなく、あなたも

SINを犯したことがあります。意志だけでSINなしで潔白な毎日の生活を送ることは不可能ですが、信徒になったら神様である聖霊様が人間の霊の中に住みにいらっしゃいます。それだからこそ聖霊様の導きに従ってSINを犯さないか、又は、その導きを無視して犯すか選べます。私はそれを実感しました。1999年に信徒になったら聖霊様の導きに従いたいという強い望みが現れ、それはその時まで経験したことがなかったので、私の霊の中に聖霊様が実際にお入りになった証明だと信じざるを得ませんでした。そのお陰で、どれほど神様が人間のSINに対して憎しみを持つか少し分かりました。勿論同感する日本人の信徒もたくさんいらっしゃるでしょう。

人によっては「いい人」にさえなれば充分だと思いがちな人もいますが、とんでもありません。いくら良い人になろうとしても自分のSINを抹消できる人がいないから、神様は人々のSINを抹消できるようにSINを知らない御子のイエス様をこの世に送られ、御自分の命を供えて犠牲になさいました。言い換えればあなたが天国に永久に住めるようにこの世に来られました。聖書が明確にするのはイエス様を通さずに天国に行ける道は一切ないということです。

(2) 神様が非常に強くあなたを愛しておられることを信じればいいのです。愛しておられるので、当然ながら一対一の個人的な関係を望んでおられます。神様は御子を十字架で死なせたほど人間を愛しておられます。

(3) 神様と一対一の個人的な関係をどのようにして始めればいいのか。友達と知り合うように、お互いに言いたいことを交わします。例えば、あなたは自分の生活の計画・悩み事・希望等のことをイエス様に話します。それからかわりにイエス様は御自分について少し知って欲しいので、あなたに聖書をよんでもらいたいのです。聖書の一つの目的は神様を人間に紹介することです。それは生きている間ずっと続きます。聖書を読んでいる時に神様は何をおっしゃっているかを考え、そしてどうやって私の人生に応用できるかということも考えます。聖書を全然知らない人はヨハネという新約の書から始めることをお勧めします。

どんな関係でも共に時間を過ごせば過ごすほどその関係が深く充実するのと同様に神様と時間を過ごせば関係が深く充実したものになります。お祈りということは神様との話だというこ

とです。その関係がとても特別でユニークである理由はいくつもあります。次の通りです。

* 神様はあなたの性格や考え方や思考を全部ご存じです。

* しかも味方なので手助けをさせていただきます。

* 神様が常にそばにいらっしゃるので、夜中に起きたら話せるし、悩んでいる時も話せます。この一対一の関係は何より大切です。しかも、思うほど難しくはありません。それどころかますます面白くなります。

天国に着くと神様は財産や職種等のことを聞かず、ただ「どれほどイエスを愛していましたか？」をお聞きになります。

神様は永久に変わらないお方であり、全力・全能・全権をお持ちです。人間が認めなくても神様は御自分の法律によって皆を裁きます。

教会へ通うことについてですが、サッカー等のスポーツで強くなれるようによく運動場にトレーニングをしに行かなければならないように、神様との関係が強くなれるようによく他の信徒と話したり活動に参加したり励まされたりすることができるように、よく教会へ行かなければなりま

せん。神様のことを知りたい気持ちが強くなり、友達になった信徒に会いたいのので、毎週の日曜日の集会が楽しみなものになります。

キリスト教の初心者の場合でしたら アルファ・コース はお勧めです。アルファ・コースというのは二十年前からやっており、全世界に普及してきたかなり有名なキリスト教を紹介するコースで、初心者向きです。コースでは大体4〜8人が一週間に一回集会する十週間で構成され、人々が気楽に質問をしたり疑問点を話したりする機会になります。どうぞ日本のインターネットのサイトをご参照下さい。

最後に、神様を一対一で知れるように試しに一年間を割いてみませんか。

サイモン・フォート (Simon Forth)

問い合わせ (和文で): s.forth@sheffield.ac.uk